

### 3. 地域

#### 中世ヨーロッパとイスラム世界の歴史地図



# 身近な空間

ポール・ズムトール『世界の尺度－中世における空間の表象』  
(鎌田博夫訳)法政大学出版局、2006年、3頁

- というのも、事実、時間は議論の余地なく人間の支配者であり、人間は記憶によってきわめて親密に時間と関わっているからだ。ところが一方、人間と空間との関係は逆であり、希薄である。おそらく時間に対して受動的、空間に対して能動的な立場で、われわれは時空を生き、それでもいっしょに両者を知覚している。あらゆる生命を生みだす活動は、この両者を不可分に包含している。

# 人間的空間としての場所

場所とは、認識によって切り取られた人間的な空間

パーソナル・スペース(個人空間・「快適距離」)

- とくに本書は、生きられた世界の一つの現象である「場所」について考察しようとするものであり、私たちの場所体験の多様さと濃密さを明らかにしようとするものである。「場所」や「場所のセンス」といったものは科学的な分析には向かない。それは、両者が生活の希望や不満や迷いのすべてと不可分にかかわっているからである。(エドワード・レルフ『場所の現象学—没場所性を越えて』v-vi頁)

## ハイデガー

オギュスタン・ベルク『風土学序説』筑摩書房、2002年、140頁

- 橋がないときには、場所もなかった。もちろん橋がそこに建つ前にも、流れに沿って、さまざまな物が占めることのできる多くの箇所は存在していた。そしてついにそのうちのひとつの箇所が〈場所〉となるが、それは橋のおかげである。だからある場所に橋が建てられるのではなく、橋から出発して、ひとつの場所が生まれるのである。

# 空間と地域

## 空間・場所・地域

地域とは、場所的な空間からなる社会生活の場

## 人間主義的「環境」

和辻哲郎

『風土－人間学的考察』岩波文庫、1979年

レルフ、エドワード

『場所の現象学－没場所性を越えて』(高野岳彦ほか訳)筑摩書房、1991年

トゥアン、イーフォー

『空間の経験 身体から都市へ』(山本浩訳)筑摩書房、1998年

『トポフィリア 人間と環境』(小野有五・阿部一訳)せりか書房、1992年

ベルク、オギュスタン

『風土学序説』(中山元訳)筑摩書房、2002年

## 和辻哲郎

『風土—人間学的考察』岩波文庫、1979年、18-19頁

- 人間存在は無数の個人に分裂することを通じて種々の結合や共同態を形成する運動である。この分裂と合一とはあくまでも主体的実践的なものであるが、しかし主体的な身体なしに起こるものではない。従って主体的な意味における空間性・時間性が右のごとき運動の根本構造をなすのである。ここに空間と時間とがその根源的な姿において捕えられ、しかも空間と時間との相即不離が明らかにせられる。人間存在の構造をただ時間性としてのみ把捉しようとする試みは個人意識の底にのみ人間存在を見いだそうとする一面性に陥っている。人間存在の二重性格がまず人間の本質として把捉せられるならば、右のごとき時間性に即して同時に空間性が見いだされなくてはならないことは、直ちに明らかとなるであろう。

# 時間と空間

## 人間を介しての時間と空間の融合

歴史とは

物理的な時間と人間的な時間

人間的な時間: 社会関係のなかで認識され、切り取られた時間

⇒歴史とは、人間的な時間の積み重ねである

⇒地域は、歴史(人間的な時間)が積み重なった人間的な空間

地域とは

物理的な空間と人間的な空間

人間的な空間: 社会関係のなかで認識され、切り取られた空間

⇒地域とは、そこでわれわれの生活が営まれる人間的な空間である



## 歴史学 vs. 地域研究？

- これまで、時間の学問である歴史学と地域の学問である地域研究は、対立するとはいわないまでも、その方向性を異にする学問であるといわれてきた。地域研究が「現在」にこだわるのに対して、歴史学は「過去」を研究対象とするからである。しかし、フランスのアナール歴史学派に代表されるように、人文社会科学にとって、「時間」と「空間」は切っても切れない研究対象である。
- とりわけ、近年では、一方でブローデルの重層的時間論、とりわけ「長期持続」の概念、他方で現象学的地理学に代表される人間主義的「環境」の概念など、歴史学、地理学双方における新しい潮流から、時間と空間との間の垣根が低くなってきている。「歴史」と「地域」は、それぞれ人間的な「時間」と「空間」だからである。その結果、歴史学が「過去」を、地域研究が「現在」を対象とする学問であるとの出張は意味をなさなくなりつつある。



# 時間と空間との交差のなかでの社会関係の集積としての地域

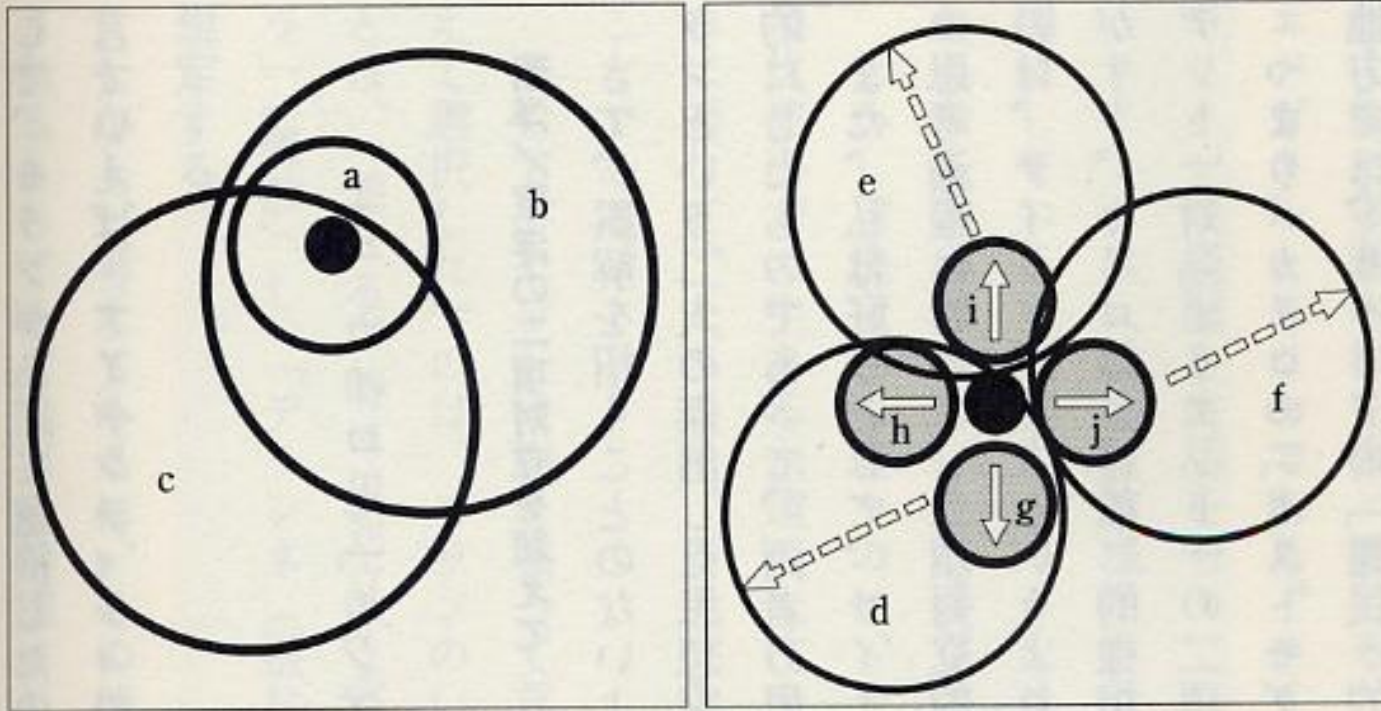
ガマル・ヒムダーン(1928-93)のエジプト社会論(『エジプトの個性』) Gamal Himdan, *shakhsyat misr*, 4vols, Cairo, 1980-84

地域的特性(「地域の個性」)を刻印する二つの要素  
「立地」と「位置」

- 「立地」(マウディウ): 地域固有の特徴をつくりだす、規模・資源をもった環境  
触れることのできる内部的土着的な特殊性  
⇒ナイルの水に依存する水利生態系
- 「位置」(マウキウ): 土地、人口、生産の分布との関係によって、また外部との諸関係に規制された、地域の相対的な特徴  
直接見ることのできない幾何学的な思想  
⇒アジア、アフリカ、ヨーロッパの三大陸の結節点という地政学的な重要性

# 重層的で可變的な「地域」概念

ガマール・ヒムダーン(1928-93)



ヒムダーンによるエジプト(●)を中心とした重層的な地域概念図

a アラブ圏, b イスラム圏, c アフリカ圏, d アフリカ, e ヨーロッパ, f アジア,  
g ナイル峡谷, h 西アラブ地域(マグリブ), i 地中海, j 東アラブ地域(マシュリク)